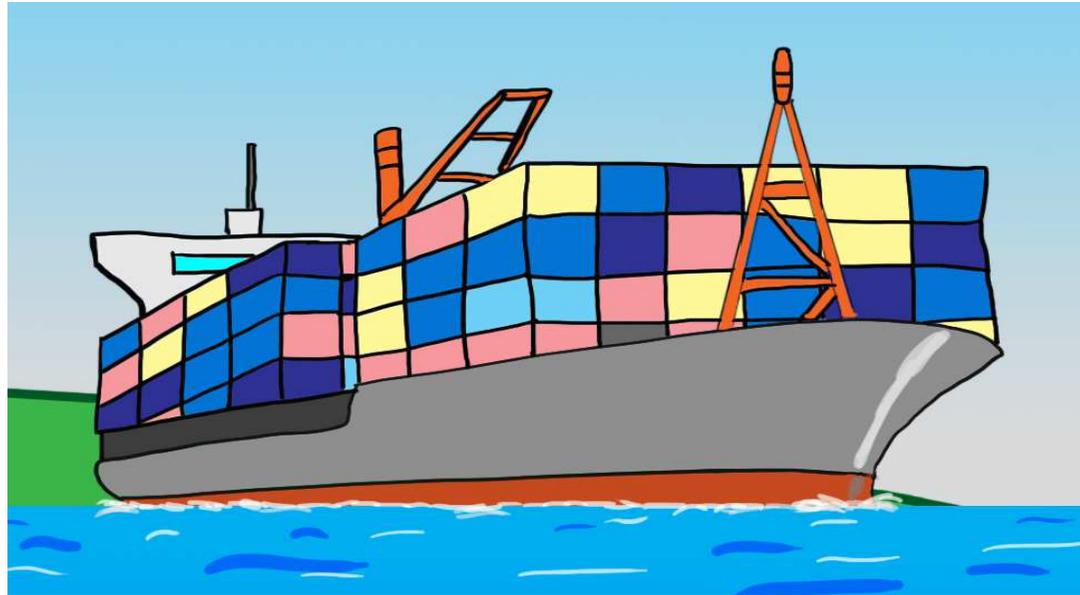
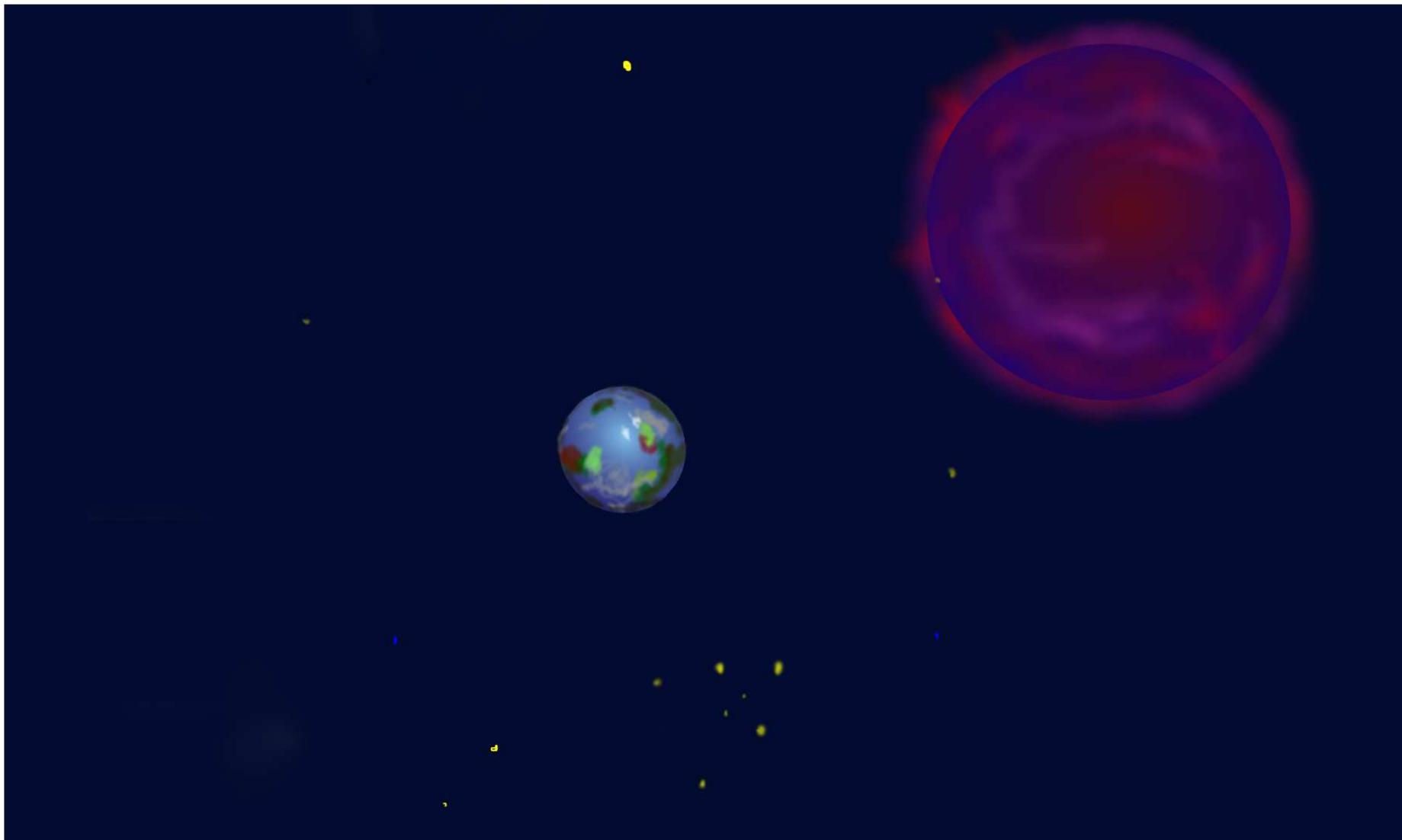


自由貿易の星



東郷 潤

遠い宇宙に、完全自由貿易を達成した星がありました。



その星にある全ての国は、比較優位に基づいて、一つの商品の生産に特化しているのです。こんな具合です。

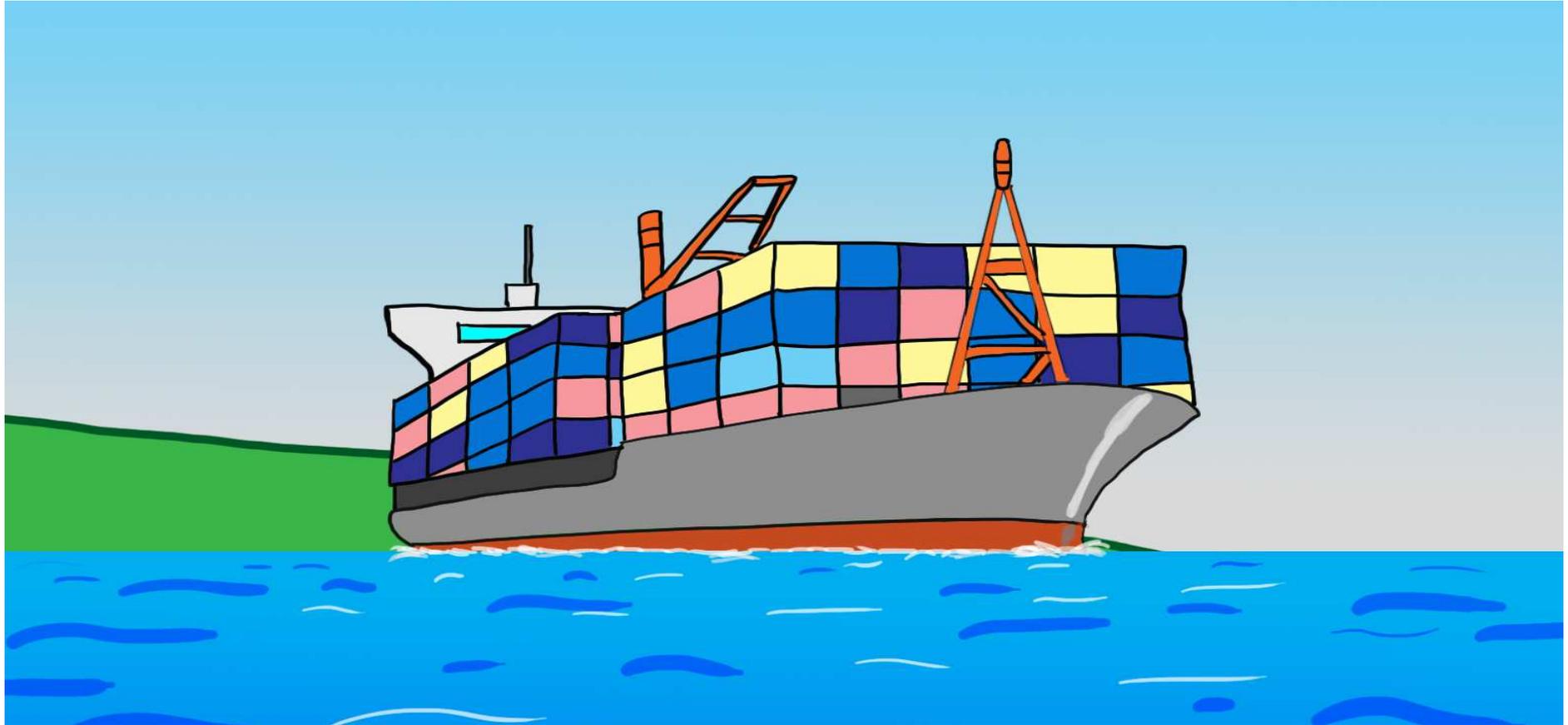


J国は電気スタンドの製作だけに特化した小国です。総人口は40万人です。



J国には電気スタンドメーカーが10社あります。それぞれ1万人を雇用しており、就労人口は10万人です。失業者はいません。

J国は電気スタンドを輸出した代金で、衣料品や食料など必要な商品の全てを輸入しています。



この星の人々は皆、「それぞれの国が他国との比較の上で、最も得意な商品の生産に特化し自由貿易することが最も効率的で良いことだ」と固く信じていました。

さて、J国の10社の会社は、それぞれ年間百万個の電気スタンドを作っています。J国全体では1千万個（百万個×10社）です。

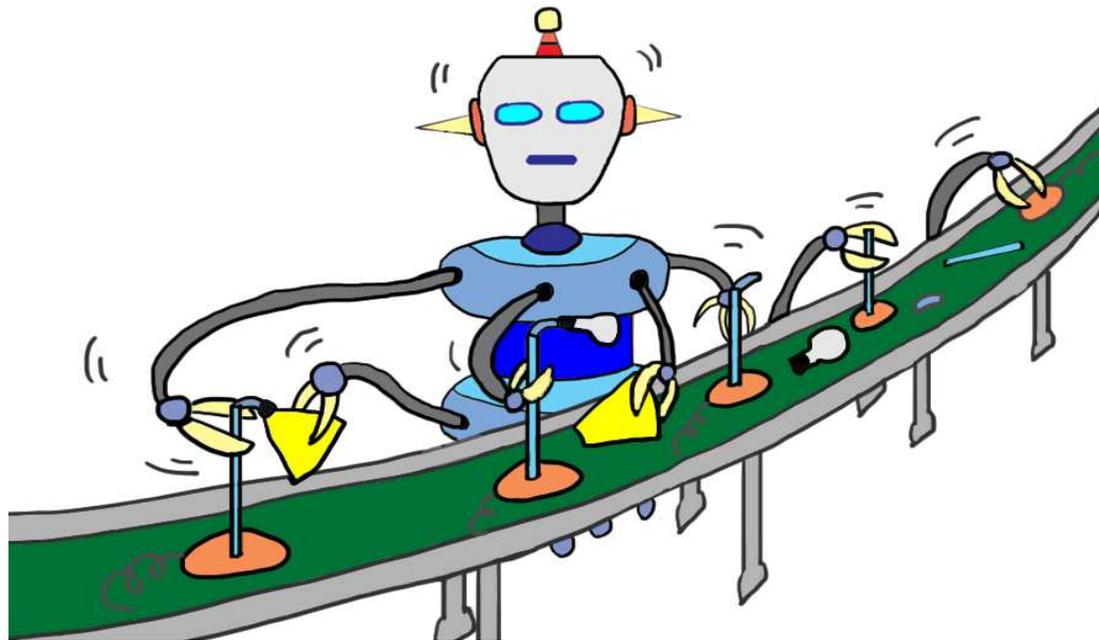


電気スタンドの販売価格は1万円です。内訳は、製造原価が6千円。残り4千円が利益です。



{ 原価 6,000円
{ 利益 4,000円

ある年、10社のうち1社（会社名は、自由競争社とします）が革新的な合理化に成功しました。その結果、製造原価を今までの半分の3千円とすることができたのです。そして電気スタンドの販売価格を1万円から5千円に値下げしました。



5千円で買える電気スタンドを、1万円で買う国はありません。当然、他の9社が作る1万円の電気スタンドは全く売れなくなりました。

この星の全ての電気スタンドは、自由競争社だけで製造・販売することとなりました。その結果、自由競争社の売り上げ・利益は5倍にもなったのです！

自由競争社

	合理化前	合理化後
売り上げ	100 億円 (1 万円×100 万個)	500 億円 (5 千円×1000 万個)
利益	40 億円 (4 千円×100 万個)	200 億円 (2 千円×1000 万個)



他の9社は倒産しました。J国の経済状況は、自由競争社の合理化の前後で次のように変化しました。

J国

	合理化前	合理化後
売り上げ	1000億円（1万円×1000万個）	500億円（5千円×1000万個）
利益	400億円（4千円×1000万個）	200億円（2千円×1000万個）
会社の数	10社	1社
就労人口	10万人	1万人
失業率	0%	90%
政府の財政	黒字	大幅な赤字

J国全体の売り上げ・利益が半分に。就労人口¹は9割減って税収も激減。その一方で失業対策などの歳出は激増し、J国政府の財政収支は大幅な赤字へと転落しました。

¹注 話の単純化のために、自由競争社の雇用は1万人のままとしている。また公務員の数・仕事などもすべて計算に入れていない。

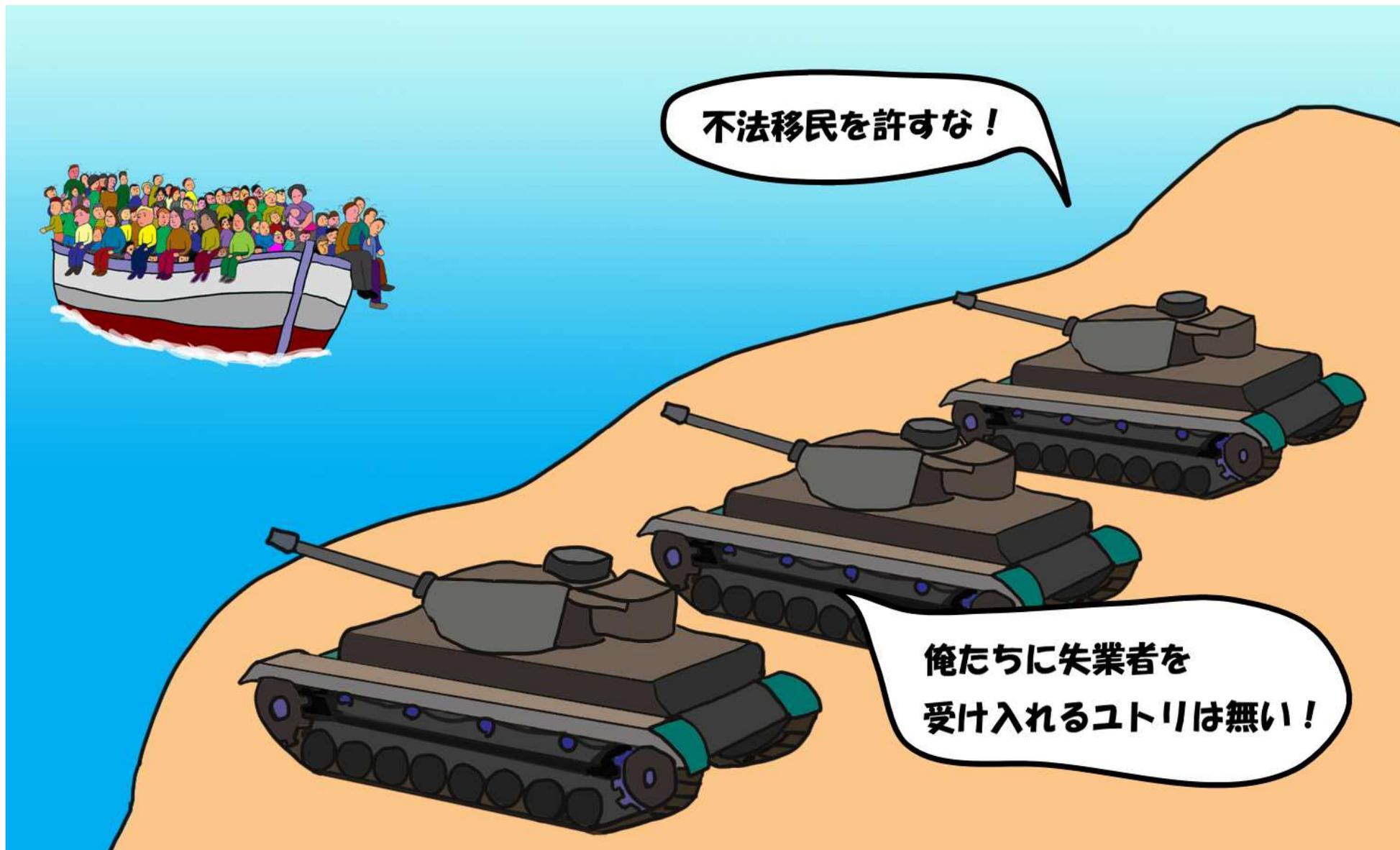
職を失った人々は転職したくても、電気スタンド製作に特化したJ国に他の仕事は一切ありません。



失業率90%では、J国政府も財政破綻は免れません。結果的に、36万人（総人口40万人の9割）のJ国人は職を求めて国を捨てざるを得なくなってしまったのです。

これが、完全自由貿易・自由競争の成れの果てです。





あとがき ー絵本「自由貿易の星」

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、出来るだけ多くの方に、読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2016